

令和7年10月27日
庶務課

令和7年度 第1回教育推進プラン点検・評価委員会
議事概要

1 日時	令和7年7月2日（水）午後6時～7時30分		
2 場所	オンライン開催		
3 出席者	<p>【委員】 若林彰（有明教育芸術短期大学学長）前島正明（帝京大学大学院教職研究科教授）、大平千鶴（公募区民）、川倉祐美（公募区民）、佐藤勝行（豊洲北小学校長）、関根淳之（東陽中学校長）福原良子（豊洲幼稚園長）、島田桂太（小学校PTA連合会会長）、山中聰（中学校PTA連合会会長）、矢田梢（幼稚園PTA連合会会長）</p> <p>【理事者】 本多教育長、青柳教育委員会事務局次長、瀧澤庶務課長、西尾学校施設課長、西野学務課長、金指指導室長、木内教育支援課長、大田地域教育課長、吉木江東図書館長</p>		
4 欠席者	なし		
5 点検・評価項目	<p>テーマ1 学び・育ち 施策1 「確かな学び」 施策2 「豊かな心」 施策3 「健やかな体」</p> <p>テーマ2 自分らしさ 施策4 「個に応じた教育」 施策5 「丁寧な相談」</p>		
6 意見・質疑	<p>【テーマ1】 (委員) 成果指標の中の「全国体力調査」の結果について、小学生は令和5・6年度までは都の数値を上回っているが、中学生は下回っている。このあたりの分析はしているのか。</p> <p>(理事者) 中学になると部活動があるため、運動部と文化部といった部分での差も考えられるが、実際体力調査の結果を見ると中学生の運動時間は少なくなっている。また、学習や趣味などに時間をかけるような傾向もあるため、これらが体力の数値に影響しているものと考えられる。なお、本区は運動することが好きと答える児童・生徒が多い傾向があるので、学校のほうでも特に中学生が運動に取り組む機会を多く設定し、授業の中でウォームアップタイムの充実を図るというところで学校には投げかけていきたい。</p>		

	<p>(委員) 成果指標の中の「いじめはどんな理由があってもいけないという児童生徒の割合」が令和元年度から見ると全体的に下がっているように見受けられるが、見解は。</p> <p>(理事者) 全校においていじめに関する授業を行ったり、生徒主体のいじめ防止に向けた取組などを実施しているため、引き続き 100%を目指して学校での取組を充実させていく。</p> <p>(委員) 直接のいじめ、もしくは携帯の普及による SNS 等でのいじめが増えたことにより、数値が下がったのではないかと思う。本来、これを抑えたりするのは保護者の役割だと思っているが、できれば教育委員会の方で SNS 等でのいじめが増えているのか、直接的ないじめが増えているのかということを数値化し、保護者向けに周知していただけだと助かる。</p> <p>(委員) 確かな学びについては、こうとう学びスタンダードに基づき本当に各学校で推進されていると思う。その背景には先生方の研修や授業力、指導力の向上に対し、計画的に研修をされていることが、指導力向上に繋がり、それが確かな学びに結びついているという印象を持っている。是非、こどもたちへの学びを充実させるためにも、先生方の授業力向上に向けた取組はこれからも続けていただきたい。もう 1 つは「情報モラル」に関する出前授業について、どのようなお話をされたかお聞きしたい。</p> <p>(理事者) 江東区ではチャレンジウェンズデーといって、水曜日は「大人もこどもも主体的に学ぶ水曜日」というふうに位置付けている。こどもだけでなく先生方も主体的に研修に取り組むということはとても大切なことだと考えている。我々もその先生方の主体的な学びを支えられるよう、チャレンジウェンズデーの設定や様々な補助をさせていただいているところである。</p> <p>出前授業については、昨年闇バイトが話題になったときに、茨城県の中学生が山口県で逮捕されたという事があったと思う。これを受け、こどもたちに「SNS に潜む危険」という話を伝えたいと思い、教育委員会と警察で連携して作成したポスターの紹介や各学校での SNS ルールが大切だということを改めてこどもたちに話をしてきた。まだ始めたばかりだが、今後も続けていきたいと思う。</p>
--	---

	<p>(委員) 全国体力調査の幼稚園版はないのか。もし分かれば体力調査の数値も教えていただきたい。</p> <p>(委員) 幼児の体力調査は5年に1回で、江東区では今年度3園でこの調査に参加することになっている。そして数値として落ちているのがソフトボール投げで、肩を使って投げることが難しいことと、体支持といって自分の体を支えられる時間が短くなってきていていると言われている。</p> <p>(理事者) 江東区でも体力向上の取組の中で課題になっていたのは、幼稚園だとソフトボール投げ、中学校だとハンドボール投げといったところがあった。ただ運動することが好きと答える方が多いことが江東区の良さであるため、そういう部分では生涯を通してスポーツを楽しむとか、親しむとか、そういうことを大事に育てていきたいと考えている。現在策定中の(仮称)教育推進プラン・江東(第3期)に向けては、体力向上だけでなく、運動に親しみたいと思うこどもたちの気持ちを高めていくところも大事にして進めしていく。</p> <p>(委員) 小学校時代にどんな体力を高めなければならないかと考えたときに、巧緻性、体の柔らかさ、あとは持久力など様々ある。特に一番伸びるのは巧緻性であると思うが、それが全国の中で高い方にあるということは、江東区が体力スタンダードをしっかりとやって運動に取り組んでいることであり、それは体力調査の結果を見れば分かる。こどもたちの体力はもとより、運動が大好きと言うのであれば、生涯を通してスポーツを楽しめるということに繋がっていくと思う。</p> <p>(委員) 自己肯定感や心っていうのはなかなか外側から見えないことだと思うが、例えば、指導する先生方というのは、毎年何か自己肯定感やこどもの育成に関する研修を受けているのか。</p> <p>(理事者) 人権教育プログラムを活用した研修を毎年行っている。また「子どもの権利に関する条例」なども制定されたので、より一層こどもたちを大事にする。そしてこどもたちがそれを受け、自分たちの自己肯定感を感じられるよう大事にしていきたいと思う。</p>
--	---

	<p>【テーマ2】</p> <p>(委員)</p> <p>教育相談窓口の主訴別割合のグラフの中で「教職員との関係」が5%あるが、先生が厳しくて困っているといった相談内容があるのか教えていただきたい。</p> <p>(理事者)</p> <p>特段、非常に重篤なものはなかったと把握しているが、やはり良好な人間関係ではないというふうに感じたケースが多かったのではないかと思う。もしそういった相談があった場合、こどもたちが次のアクション取れるよう、学校のスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用を勧めるアドバイスをしていく。</p> <p>(委員)</p> <p>先生方がこどもとの関わり方を厳しくしすぎてしまうと萎縮してしまうと思う。そういったこどもとの関わり方に関する研修などを先生方は受けているのか。</p> <p>(理事者)</p> <p>職層においての研修やこどもたちに寄り添った研修、特別支援教育に関わるようなものなど様々ある。色々なタイプの先生方に寄り添っていただき、役割分担をもって対応していくということが大切である。例えば、特別な支援や配慮を要する子については、学校内でどういった役割分担を持ちながらそのこどもたちを支援するかということを組織的に考えていくことが非常に進んでいく。その場合、担任の先生が特別に対応したほうが良いケースもあれば、スクールカウンセラーの方に寄り添っていただくとか、養護教諭や特別支援教育、教育コーディネーターの先生、さらに保護者との連携といったことも非常に重要になると思う。そのため、担任だけが1人で抱え込むのではなく、学校組織として色々な形、それから学校だけで対応しきれないケースについてはスクールソーシャルワーカーの活用なども勧めるよう、今後も上手く進めていく。</p> <p>(委員)</p> <p>こどもとの関わり方で、今までの指示や命令などの強く言うだけの教育では主体的・対話的な学びの実現はできないので、やっぱりこども自身が何やりたいのか話を聞き、こどもの良いところを見ていくことが大切である。</p> <p>(委員)</p> <p>先生との関わり方で悩んでいるこどもがいるというのは事実だと思う。その把握について色々学校でも努めている。アンケートだ</p>
--	---

(続)	<p>けでなく、学級担任との面談の中で各々が抱えている悩みなどを把握し、教科担任等も含め学年全体で生徒を見ていけるよう今後も取組を進めていく。</p> <p>(委員) 就学相談について何度か相談した際、教育委員会と学校との連携がなされているのだろうかと感じたことがあった。</p> <p>(理事者) 連携が上手くできていないのではと感じられたとのことで、相談員、学校、そして教育支援の係でさらなる連携を深めるとともに、こどもだけでなく保護者にも寄り添い、就学相談に関わって良かったと思えるものになるよう引き続き努めていく。</p>
-----	---

以上